

## 疾患名

慢性炎症性脱髄性多発神経炎

## 病気について

慢性炎症性脱髄性多発神経炎（chronic inflammatory demyelinating polyneuropathy: CIDP）

慢性炎症性脱髄性多発神経炎は、2カ月以上かけて緩徐に進行する四肢筋力低下と感覚障害を主な症状とする末梢神経の病気です。ギラン・バレー症候群と異なって、多くの例で再発性の経過をとり、症状が良くなったり悪くなったりを繰り返し、その後慢性的に進行する場合があります。

詳細は不明ですが、何らかの原因で免疫系に異常が生じて、誤って自分の髄鞘（ミエリン）を攻撃することによって発症すると考えられています。

## 治療について

副腎皮質ステロイド薬（内服）、免疫グロブリン静注療法、アフェレシスを行います。再発する場合は、副腎皮質ステロイド薬や免疫抑制薬などが用いられ、さらには定期的な免疫グロブリン療法（静注または皮下注）も行われます。

## アフェレシス療法の適用とその実施

保険適用：あり

アフェレシス療法の種類：血漿交換、二重膜濾過血漿分離交換、免疫吸着法

回数：一連について月7回を限度として、3カ月間に限って行います。